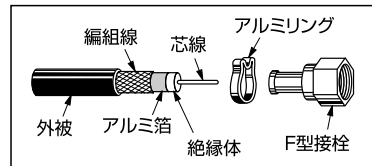


同軸ケーブルの加工方法とF型接栓の取付方法(別売品)

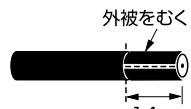
◆用意するもの

カッターまたはナイフ、ハサミまたはニッパー、ペンチ。

■各部の名称



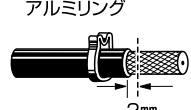
① カッター、ナイフなどで点線の部分をカットします。(深さ1mm程度)



② 外被をむき、アルミリングを通しておきます。



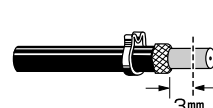
③ 外被から2mm程度はなして編組線をいねいに切り落としてください。



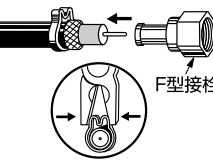
④ 編組線をめくりあげます。



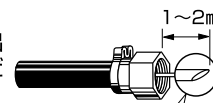
⑤ 編組線から3mmはなして絶縁体とアルミ箔を同時に切り、抜きとります。



⑥ F型接栓をアルミ箔と編組線の間に挿入し、アルミリングをペンチなどでつまんでしっかりとつぶしてください。



⑦ 芯線の先端は1~2mm出し、斜めにカットしてください。



芯線が長いと接続端子を破損する場合があります。

芯線は斜めにカットすると挿入しやすい

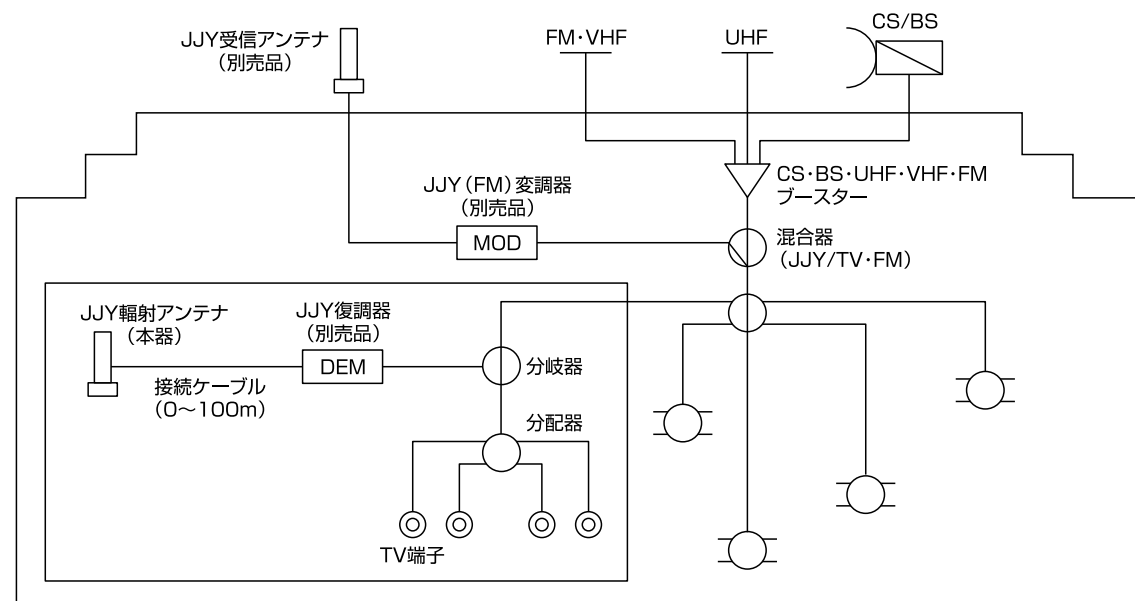
ポイント

- 絶縁体をカットするときは芯線をキズつけないように注意し、芯線と編組線が接触していないかをご確認ください。
- 芯線に付着物がないか確認し、付着物がある場合には、きれいにとってください。
- 芯線の外径が1.5mm以下の同軸ケーブルをご使用ください。外径が1.5mmより太い場合は、ピン付接栓をご使用ください。(※同軸ケーブルを取換える場合は、以前使用していた同軸ケーブルと芯線の外径が同じ同軸ケーブルをご使用ください。)

●F型接栓締付トルク 2.0N・m(約20kgf・cm)

注意 加工の際、切りくずの扱いや工具の使用には十分注意してください。思わぬケガの原因となります。

システム導入例



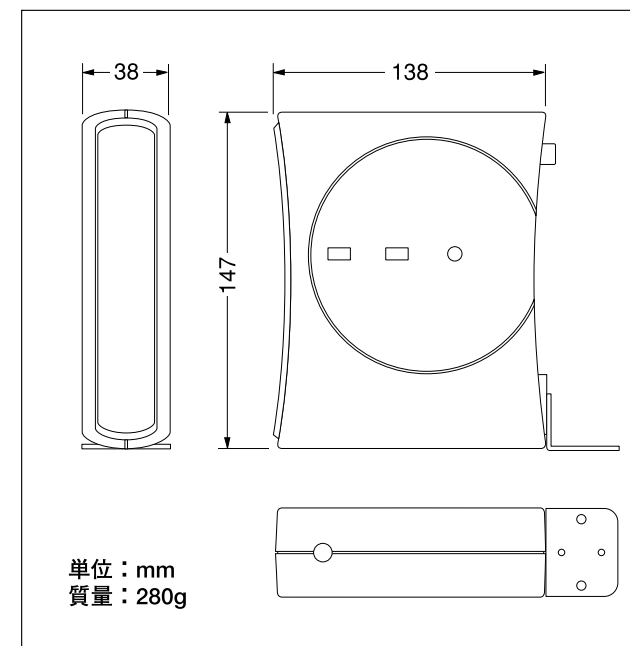
日本アンテナ

取扱説明書・施工説明書 —保証書付—

このたびは、日本アンテナ製品をお買い上げいただきありがとうございます。ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みの上、正しくお使いください。工事の際には施工説明書に従って施工をおこなってください。お読みになった後は、いつでも見られるところに必ず保存してください。また、正しく安全にお使いいただくため、ご使用前に必ず「安全上のご注意」をごらんください。

取扱説明書

外観および寸法図



取扱上のご注意

電気工事には専門の資格が必要です。取付工事は、専門の施工業者にご依頼ください。

メンテナンス

年に1回は専門業者に保守・点検をご依頼ください。

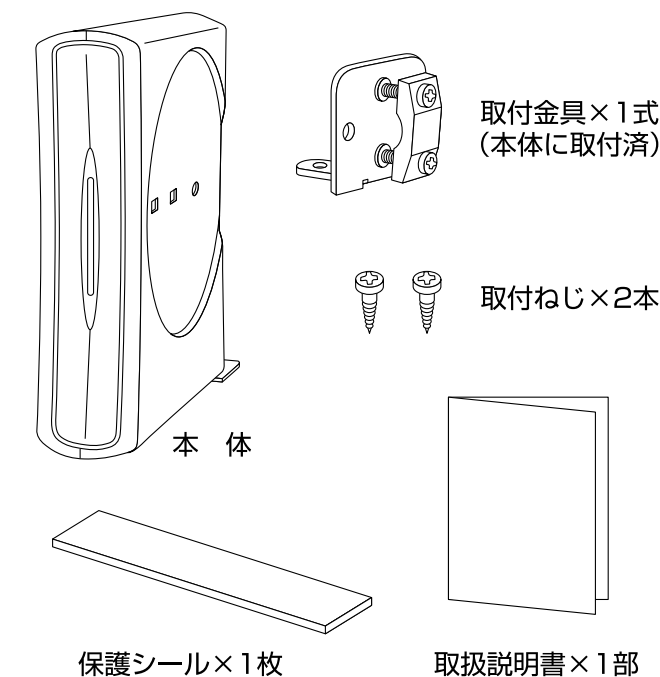
屋内用 電波時計受信システム 輻射アンテナ

Model STR1F

特長

1. ビル内や地下街などで電波が遮断され、電波時計の受信が難しい場所で標準電波を再輻射するシステムで使用する輻射アンテナです。
2. 復調器(STD1F)より復調されて標準電波の信号を再輻射します。
3. 40kHzと60kHzの両方の電波に対応しています。
4. 復調器(STD1F)と輻射アンテナは最大100mまでの同軸ケーブルを延長して使用できます。
5. 小型・軽量で色々な取付が簡単にできます。
6. 室内設置で半径約8m程度の輻射が可能です。

梱包内容



情報通信が仕事です。

日本アンテナ株式会社

本社/〒116-8561 東京都荒川区西尾久7-49-8 ☎(03)3893-5221(大代)

※製品改良のため、仕様・外観の一部を予告なく変更することがあります。

D892005100 平成20年5月

施工説明書

安全上のご注意

絵表示について この「安全上のご注意」、「取扱説明書」、「施工説明書」および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、お使いになるかたや他人への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

警告	
	△記号は注意（注意・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容（左図の場合は警告または注意）が描かれています。
	⊘記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近くに具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。
	●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください。）が描かれています。

各部の名称

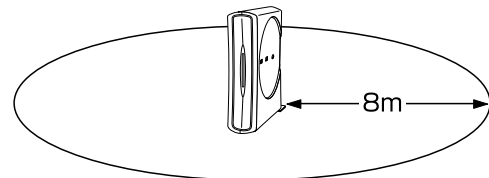
	① 取付金具	専用金具により縦置き、壁付け、天井付け、アンカーボルト取付などの設置が可能です。
	② 入力端子	復調器から同軸ケーブルで標準電波の信号を入力します。
	③ 接続ケーブルスイッチ	同軸ケーブルを50m以下で接続する場合は「短」、50m以上で接続する場合は「長」にします。
	④ アンテナ切換スイッチ	標準電波の信号が40kHzの場合は「40kHz」、60kHzの場合は「60kHz」にします。
	⑤ P.Lランプ	電波時計が正常に放射されている場合は周期的な点滅を繰り返します。ノイズが強い場合は点灯やバラバラの点滅、電波時計の信号が停波している場合やシステムに異常がある場合は消灯します。
	⑥ 本体	アンテナが内蔵されています。

標準性能表

項目	仕様	備考
アンテナ出力	40kHz、60kHz共用	
放射信号	長波標準電波	
放射可能範囲	半径約8m	
アンテナ指向性	360°	
LED	JJY放射信号確認用	点滅
入力側復調器	STD1F	
入力端子	F型端子	
入力インピーダンス	6Ω	
接続ケーブル	75Ω同軸ケーブル	最大約100m
設置形態	縦置き	
取付方法	縦置き、壁面、天井、アンカーボルト（φ5～13mm）など	

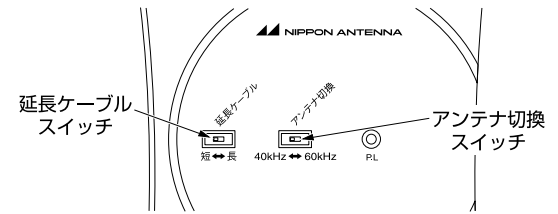
電波の説明

放射アンテナから半径8mで使用できます。（同一フロア内）
また、鉄素材の障害物がある場合や電子機器などの周辺では受信できない場合があります。



復調器との接続とスイッチの設定

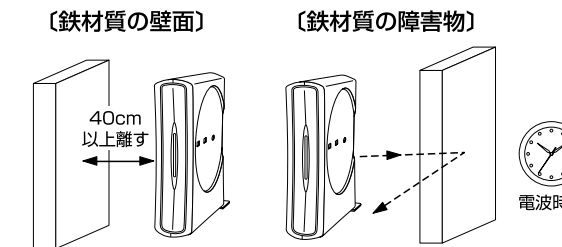
- 本器は必ずJJY復調器（STD1F）とセットでご使用ください。
- STD1Fから本器は2台まで接続することができます。
- 本器の設定は「延長ケーブル」スイッチと「アンテナ切換」スイッチの2つですので、ご使用状況に応じてスイッチの設定をおこなってください。
- スイッチの設定は前頁「各部の名称」の③、④をご覧ください。



注意 ケーブルは短絡しますと故障の原因となりますのでご注意ください。

設置場所・設置条件

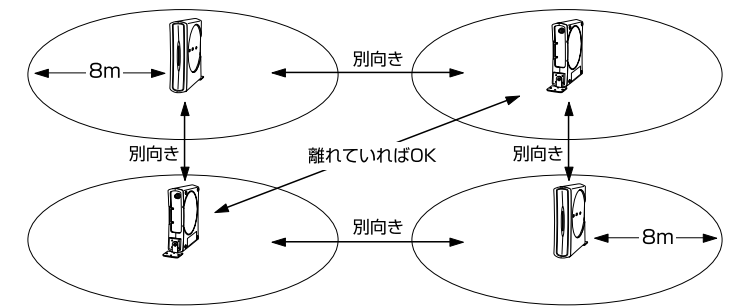
- 壁面や天井が鉄材質などの場合は放射アンテナを40cm以上離して使用してください。（アンカーボルトなどの棒状程度であれば問題ありません。）
- 放射アンテナと電波時計の間に鉄材質の障害物がある場合は受信できませんのでご注意ください。



アンテナの設置方向

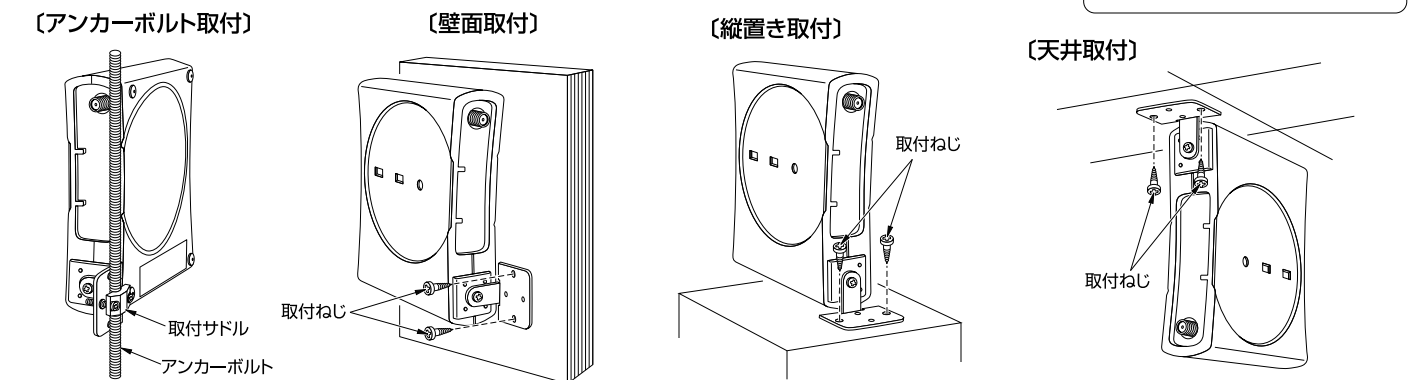
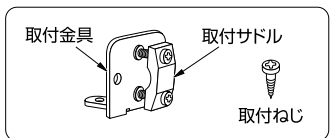
- 放射アンテナは複数台設置することで受信可能エリアを広げることができます。
- 放射アンテナの設置方向には「磁界の向き」という方向性がありますので、複数台設置される場合は下図をご参照ください。

ポイント 隣接する放射アンテナの向きは同じ方向にならないよう設置してください。



アンテナの取付方法

- 本器は必ず縦置きにてご使用ください。
 - 本器は付属の取付金具を使用してアンカーボルト・壁面・天井・縦置きなどの設置が可能です。下図を参照に目的にあった取付をおこなってください。
- ※放射アンテナの周囲40cm以内に鉄成分の障害物がある場合は取付けできませんのでご注意ください。



設置確認・保護シール貼付け

- 「復調器との接続とスイッチの設定」と、設置作業が終了したら標準電波信号を放射している状態でLEDの確認をおこなってください。
- 最後にホコリ混入防止のための保護シール（付属品）を貼付けてください。

- LED点滅（周期的な点滅）… 正常に電波を放射しています。
- LED消灯…………… 標準電波信号が停波しているか、本システムがうまく接続されていない可能性があります。
- LED点灯…………… ノイズを放射している可能性があります。受信アンテナや変調器の設置をご確認ください。
- LED点滅（不定期）…………… ノイズを放射している可能性があります。受信アンテナや変調器の設置をご確認ください。

LEDが正常に点滅している状態でも、電波時計の設置場所によっては受信できない場合がありますので、購入された電波時計の説明書をよくご覧ください。
※電化製品や鉄材質の近くに電波時計を置くと正常に動作しない恐れがあります。

